



自分を越えた眼を Look Beyond Yourself

Raja

ラジェンドラ・K. サブー
1991~1992年度RI会長

ロータリー雑誌月間

1992. 4. 3 (金) 第215回例会

1. 点 鐘
 2. 国歌斉唱
 3. ロータリーソング「高めよロータリー」
 4. 「四つのテスト」唱和
 5. 会長の時間
 6. 幹事報告
 7. 各委員会報告
 8. 4月セレモニー (誕生祝・結婚記念日)
 9. 点 鐘
- 終了後、親睦懇親会を開きます。

第214回例会記録 (1992. 3. 27)

会長の時間 濱田 松太郎

皆さん今日は、本日は第214回例会です。

3月最後の例会でもあります。このところ毎日うんざりする長雨が続いていますが、この雨のことをナクネ梅雨とも、春雨ともいいまして、冬の気圧は西高東低の配置であるのに対して、北高南低の気圧配置になっています。

そして、日本南岸に前線が停滞して、その上を低気圧が東進する気圧配置で、3月から6月にかけて続くわけです。「春雨じゃ濡れて行こう」とは日本的言葉の現れかと思えます。

今日の新聞によりますと、オゾンホールがこの10年間で1.3倍にも拡大しているということでありまして、今更ながらフロンガスの消費が如何に増大しているかを考えさせられます。

皆さんご承知のとおり、オゾン層が破壊され

ることにより、太陽紫外線量が直接増加し、癌発生の引金として極めて憂慮されることでありますので、環境を守る上でよくよく注意せねばいけないと思います。

正月以来今年は暖冬であったり、かと思うと寒かったり、長雨が続きたりで、このところ気候が安定しておりませんが、このことについて去る2月頃でしたか、東京水産大学の海洋物理研究室が太平洋赤道域において広い範囲で海上の温度が異常に上昇していることを調査の結果確認しました。いわゆる「エルニーニョ現象」として世界各地に異常気象をもたらすなど、今後の気象を予測する上において最も大事な事項でありまして、たとえば、暖冬、梅雨明けの遅れ、集中豪雨、冷夏をもたらします。

実例として、1985年における長崎の豪雨、東北地方の冷夏による不作、昨年の台風19号の被害等、各地に災害を及ぼしているわけでありまして、わが国は豊葦原みずほの国としての関心が深いのです。

次は、去る3月15日に日南市で開催されました本年度宮崎県全県インターシティ・ミーティングにつきまして、登録会員の方には早朝よりのご出席本当にご苦労様でした。

この会は宮崎県内の登録した約400名の会員が一堂に会し、友情と親睦を深めながらロータリーの勉強をするのが目的であります。今回のテーマは、「例会出席について」並びに「世界社会奉仕について」でありまして、種々真剣

に討議がなされましたが、西都RCの会長から
わが佐土原RCの「ビジター賞」についてご発
言があり注目を浴びました。今後ともこのよ
うなことは続行したいものと、つくづく感じ
ました。その他、井上ガバナーよりご挨拶の中
で、「全世界には51億の人間が住んでいて、
そのうち満足に食事をしている人は10億人だ
けで、残りの41億人は毎日ろくに食事もでき
ず飢餓状態にある」と深刻に告げられました。

また、西欧諸国への難民のことも話題にのぼ
りましたが、私達ロータリアンとして何がして
あげられるのか、世界社会奉仕の重要性がひし
ひしと伝わってきました。

なお、I. M. の詳細につきましては、後日
会議報告書が配布されると思います。

幹事報告

鈴木正敏

1. 例会変更通知

- ・南宮崎RC 3月30日の例会は姉妹ク
ラブ来訪のため、18:30より
ホテル・プラザ宮崎で
- ・日向中央RC 4月1日は12:30より
仏舎利塔で観桜会

2 第2730地区高山RCから、2月24日に
認証式を終え、28名の会員で発足した旨の
案内状が届いております。

例会日：毎週火曜日 12:30～

例会場：JA会館（高山町新富88-7）

出席報告

委員長 神宮寺 利夫

会 員 数	18名
欠 席 者 数	1名
出 席 者 数	17名
出 席 率	94.44%
欠 席 者 名	郡司

ビ ジ タ ー

西都RC 尾崎 公男君

親睦委員会より 委員長 斉藤 敦馬

3月セレモニーは、次の会員の方に会長から
それぞれ記念品をお贈りして祝福申し上げます。

誕生日祝 山脇 忍君

" 神宮寺 利夫君

結婚記念日祝 井下 満男君

受祝者のハッピーボイス

誕生日を祝っていただき有難うございました。
還暦を迎えました。この機会に活力ある生活を
取り戻したいと思います。

山脇 忍

*上記の方々から多大のハッピーをいただきま
したので、ご報告とともに厚く御礼を申し上げ
ます。

会員卓話 Distemperについて

濱田 松太郎君

本日の卓話は、「犬のジステンパーについて」
申し上げたいと思います。

ジステンパーは、犬の代表的な急性熱性のウ
イルス性疾患で、伝染性が強く、地域や季節に
関係なく発生し、かつ、死亡率が極めて高いと
いうのが本症の特徴です。症状としては、全身
の諸粘膜の急性カタル性炎症と、非化膿性脳炎
で、1歳未満（特に3～6ヶ月齢）の幼若犬の
発生が多いのですが、時には老齢犬でも発生す
ることがあります。先ず原因ですが、同汎性パ
ラミキソウイルスに属する犬ジステンパーウ
イルスの経口、または、経気道感染によりまして、
3～6ヶ月（平均的に4日）の潜伏期間を経て
発病するようです。こんな場合、ウイルス感染
をしてから細菌の二次感染をすることによって、
症状がさらに悪化することがしばしばあります。

たとえば、二次感染として、気管支敗血症菌、
溶血性レンサ球菌による気道感染や、サルモネ
ラ菌、大腸菌、プロテウス菌など消化器感染が
あります。感染経路は主として感染犬による飛
沫、鼻汁、目やね、尿に排泄されるウイルスで
汚染された飲食物、あるいは飼育器具、その他

飼育環境等の間接的感染もあり得るとされております。

症状ですが、私達に見えます病状は、殆どと言ってよいくらい二次感染犬期のものであって症状がはっきり現われてから初めて病気ということが飼主に分かり、連れて来られます。

ウイルス感染の4日～6日後に発熱(39.5℃～41.0℃)と元気・食欲の軽度の不振、ときには眠やねを認めるが、2日～3日経過で軽快します。そうこうするうちに、次は二次感染へ移行するわけで、ウイルス感染による解熱の後、2日～14日以内に再度の発熱と臨床症状の発現を伴うに至り、消化器から呼吸器の粘膜のカタル症状が主体で、さらに脳神経症状に発展することが多くなってきます。

寒い時には、呼吸器を冒されることが一段と多くなるようです。

一般症状としては、

- ①発熱(弛張熱)、元気・食欲不振、削瘦、脱水、可視粘膜のチアノーゼ、心拍数の増加、眠やね、角膜炎等
- ②呼吸器症状として、鼻鏡の乾燥、くしゃみ、膿性の鼻汁、咳嗽、呼吸速迫、気管支肺炎ラッセル
- ③消化器症状として、食欲不振、嘔吐、腸カタルによる腹部の秘結や下痢又は悪臭を伴う血便を見ることがある
- ④泌尿器症状、発熱によって腎炎に罹ることもある
- ⑤皮膚病症状、内股部・下腹部に米粒大、もしくは小豆大の膿疱を散発することがある
- ⑥神経症状 非化膿性脳炎による中枢神経症状が主体で、突発的に発生することがある神経症状は、興奮、てんかん様発作、回転暴走症状等々ですが、1日に数回くり返し、経過が進んできますと、回数が頻繁になることがあります。その他神経症状ではチック(頭部・頸部・四肢・軀幹の筋)の運動失調、後軀まひ、等を表わし、多くは予後不良ですが、まれにチック症状だけを

後遺して回復する例もあります。

⑦硬盤症(Hand pad disease)

胎炎と盤球の角化を伴う症候群を硬盤症と呼んでおりますが、慢性の経過をとりましたジステンパーでは、胎症状がなくても、盤球の角化もしくは硬化を伴うのが通例であります。

臨床病理:血液検査所見では、初期においては白血球は減少しまして4,000～10,000/U Lですが、細菌の二次感染では、かえって増加するようで、50,000/U Lに達することもあります。(以下省略)

治療方法ですが、確たる薬はありません。

- ①極く初めに免疫血清又は濃縮ガンマグロブリン等を大量に投与すると効果があることがありますが、高価な割に効果は期待できないと言われております。
 - ②サルファ剤と抗生物質:サルファジメトキシシン150～200mg/kg/日静脈注射
マイシリン0.02～0.04ml/kg
アムピシリン20mg/kg筋肉注射
エリスロマイシン5～10mg/kg
タイロシン5～10mg/kg筋肉注射
スピラマイシン5～10mg/kg
カナマイシン5～10mg/kg筋肉注射
ゲンタマイシン5～10mg/kg筋注
 - ③抗てんかん剤としてブリミドン系のマイソリン250～1000mg筋肉注射
 - ④副腎皮質ホルモン:消炎と解熱の目的で初期にプレドニゾン筋肉注射2～10mg/kg皮下注射、デキサメサゾン1～5mg/日筋肉注射
 - ⑤脱水症状を呈するので、ブドウ糖液の混合した電解質の投与を続行する
 - ⑥その他の対症療法として、大量のVitamin B、Cも使用される。
- また極く初期に生ウイルスの静脈注射で成功した人もあるが、効果は期待できないようです。

2時30分 車水様

予防について

犬ジステンパーは死亡率が高いため、その予防対策には適切な予防を構することが大切です。生ウイルスV、不活化V、異種V、色々ありますが、この中で現在信用されているのが生ウイルスワクチンです。

ワクチン使用については、移行抗体の存在がワクチン効果を阻害することがあるので、十分な配慮が必要となってきますが、この移行抗体は主として初乳を介して吸収され、大多数の仔犬では8～12週になると激減もしくは消失します。従って、

- (1)初乳を介して十分な移行抗体を受け継いだ仔犬は、3ヶ月移行に1回のワクチン接種を行う
- (2)初乳の摂取量が不足であったり、あるいは移行抗体が不明な仔犬は、9週～15週齢の2回接種を行う
- (3)初乳を全く摂取してない仔犬は、2週齢から14週までに継続接種する

その他個体変動も見られるため、1年1回の割合で補追接種が望ましいのです。

近隣にジステンパーが発生した場合は、緊急の時にはジステンパー免疫血清（シーラム・ラボラトリービットニンムーア）があることはありますが、しかし積極的に推奨することはできません。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

4月は「ロータリー雑誌月間」です。

1992年国際ロータリー規定審議会報告によりますと、（ガバナー月信3月号）、ロータリー雑誌に関する標準クラグ定款の改正で、「自発的に講読者となる」という表現を、「会員である間は講読者となる」という、一歩義務に近いものに表現を改めた、とあります。しかもこの提案が、経済的にも、国政的にも不安定なフィリピンのクラブからなされたことに注目すべきであろうと井上和人代表議員は付言しておられます。

また、井上日出男ガバナーは同誌で、「ロー

タリーの友」を購入するだけでなく、是非よく読んでいただきたいと要請されています。

正直に言いますと、私も一度もすみずみまで読んだことはありません。雑誌月間を機に、皆さんとともに「ロータリーの友」の愛読者になるよう努力したいと考えます。

年間2472円のお金と、珠玉のような知識の源を溝に捨てるようなことをやめて・・・。

ところで、同報告の中に、「今回の規定審議会に対して、わが日本からの提出案件数は諸外国に比べてやはり少なかった。そして、日本からの提案は全部否決された。」と書いてあるのを読み、何となく空しい気持ちになりました。

まさか、Japan Bashingの波がRIにまで及んでいるとは毛頭考えたくありませんが、日本もRIにはかなりの貢献協力をしていると思いますので、なぜ全部否決されたのか、日本はどのような提案をしたのか、真相を知りたいものです。

1992年3月15日、宮崎全県インターシティ・ミーティングでの岡村俊一カウンセラーのことばより、

「国際ロータリーは、世界の歩みと共に、質的に変化しなければ、やがて消滅するであろうといわれている。

ロータリアンは、ハイウェイを走るキャデラックである。その道路の側には、どぶ川に落ちて助けを求めている人々がいる。しかし、手を差しのべると、手が泥で汚れるからといって、そのまま通り過ぎて行く。

助けを求めている人々に手を差しのべる実践活動こそがロータリーの存在意義なのである。」

同じように井上ガバナーから、「ロータリーの奉仕の理念は不変であるが、奉仕の形態は時代と共に変るべきものであると思う。」と述べられました。